

# 人権まちづくり新聞



11号  
編集発行  
枚方人権  
まちづくり協会

## 戦没船舶と船員の多さに驚く

### 枚方人権まちづくり協会が現地研修

一〇月四日、神戸の「戦没した船と海員の資料館」と「人と防災未来センター」で、人権まちづくり協会の現地研修が行われました。資料館の壁面には、隙間なく戦没した船舶の写真が貼られ、下段の資料には、全ての戦没船舶名が記載され



ていました。さらに、館のガイドから、当時七千隻もの民間船舶が戦場に兵士と武器を輸送するのに動員され、六万人以上の船員が犠牲になったと聞かされ、参加者はその数の多さに驚かれた様子でした。

「人と防災未来センター」では、ボランティアガイドの方から、震災当日の緊迫した救出活動の様子、近隣の人たちによって奇跡的に助け出されたことなどを聞きました。

また、避難所で、視覚障がい者の両親とその家族が、周囲の助けを受けにくく、父親が突然死されたという話も紹介され、ガイドの方が「震災から学んだことは、近隣同士の助け合い、思い

やり、愛だ」と語られたことに参加者は深い感銘を受けました。こうして参加者は、戦争や震災を通して人権を考えながら当地を後にしました。



## 妊産婦を支えられる社会に

電車やバスでこのマークを付けている人を見かけられたことはありません



んか。これは「マタニティマーク」といい、国民運動計画「健やか親子21」推進検討会が「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保を目指し」「妊産婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするもの」として発表したものです（いずれも厚労省ホームページより）。

子どもは本来、社会全体で育てるもの。妊産婦への周囲の人の支えがあつてこそ、安心して子どもを産み、子育てすることができるようになります。しかし、電車やバスの中で、ベビーカーや子ども泣き声が迷惑がられるという悲しい現実もあります。人は誰しも周囲の人に迷惑をかけながら生きるもので、お互いさまなのです。市民の皆さんが、このマークを付けている人を見かけられたら是非席を譲っていただくことを願います。

こんなことやっています

### 枚方人権まちづくり協会の相談事業

- |  |  |
|--|--|
| <p>〈人権まちづくり協会〉<br/>サンプラザ1号館5F<br/>TEL 072-844-8788（「福祉なんでも相談」を除く）<br/>[人権なんでも相談]<br/>月～金/9時～17時半<br/>[地域就労支援相談]<br/>月～水・金/9時～17時半（要予約）<br/>[進路選択支援相談]<br/>火曜日（要予約）<br/>13時～17時/18時～20時<br/>[福祉なんでも相談]<br/>月～金/9時～17時半<br/>専用TEL 072-844-8866</p> | <p>〈男女共生フロア・ウィル〉<br/>サンプラザ3号館4F<br/>以下、利用は女性のみ<br/>[電話相談]<br/>火15-20時/水13-17時<br/>木10-15時<br/>専用TEL 072-843-7860<br/>[面接相談(要予約)]<br/>水13-16時半<br/>木15-20時/金10-15時<br/>TEL 072-843-5636<br/>[法律相談(要予約)]<br/>第1土/第2金 13-16時<br/>第3木 17-20時<br/>第4火 10-13時<br/>TEL 072-843-5636</p> |
|--|--|

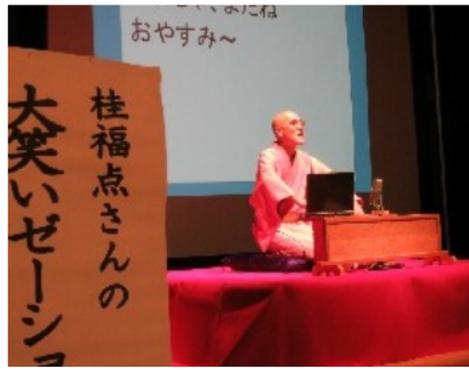
当協会のホームページが  
できました

<http://www.hirakata-jinken.com>



左のQRコードか  
らも閲覧できます。

是非一度ご覧く  
ださい。



枚方市人権  
文化セミナー

# 笑いと涙と感動の二時間

## メセナひらかたで桂福点さんが講演

十月二十五日、メセナひらかたで、当協会と枚方市等が共催する人権文化セミナー

ーが行なわれ、落語家の桂福点さんが「大笑いゼーション」でノーマライゼーションと題して講演されました。福点さん自らが視覚障がい者ということもあり、会場には多くの視覚障がい者・聴覚障がい者の方も。一九

〇人の参加者が、「笑い」とともに福点さんの話にすっかり魅了された二時間でした。福点さんは、生きてこられた道筋、人との出会い、音楽との出会いを話され、笑いあり、涙あり、感動あ

り、そしてしみじみとした思いに参加者は時の経つのも忘れて聞き入りました。福点さんは講演を通して、障がい者を理解するポイントとして、①自分の障害を理解する。②人との出会い。③自分を活かせる場所がある。④障害ではなく、その人を理解する。この四点をメッセージとして発信され、参加者が、肝に銘じておきたいと思った福点さんとの「出会い」でした。

## 「こども食堂」はみんなの居場所

みん里0円子ども食堂 梅原知子

子どもを真ん中に人から人へ。そして地域がつながり、子どもが安心して育ちあえる環境を創れたら、一人ひとりが大切にされ、多くの人に愛され、幸せな子ども時代が過ごせたらと願い、認可外保育施設を6年前に開設しました。

時代が進むにつれ、子育てが孤立化し、以前のように、我が子も隣の子も自然にふれあう機会が少なく、多くの価値観の中で親も子どもも互いに育ちあえる関係が築きにくくなっています。様々な困りごとが家庭の中だけの問題になりがちで見えにくい上に、地域のつながりや人間関係も希薄になり家族のSOSに気付きにくくなりました。もう少し早く気付いていればと思ったことも。

だからこそ、地域で子育てをしよう、子どもは地域の宝物と強く感じ、「子ども食堂」と出会ったのです。食卓を囲みながら、多くの大人と出会い、認められ、大切にされている実感を味わってほしい。そうした日々の生活の中で未来への希望、大人へのあこがれの気持ちが育まれる居場所の一つになってほしいと。

「子ども食堂」は、だれでも来られる居場所。子どもから大人まで、誰一人だって、ひとりぼっちにしない。それは、自分自身も一人にならないということなのです。大人同士がつながり、笑いあえる場が子どもは大好きなのです。

少しずつの力を集め、続けていくことで「子ども食堂」から「地域」へと。日常の生活の中であいさつを交わすつながりへと。当たり前前を当たり前前に経験できる環境へと。違いを認め互いに助け合うつながりを築き、多くの可能性を持った子どもたちが夢をあきらめることなく、安心できる居場所づくりを続けていきたいと思ひます。

(みん里0円子ども食堂一枚方市楠葉並木2-28-4)

## 会員随時募集

枚方市を市民一人ひとりの人権が大切にされる街へ。あなたも会員に。

NPO法人枚方人権まちづくり協会

TEL: 072-844-8788 FAX: 072-844-8799